

# 尾瀬ネットワーク通信

Vol 1 2. No. 1 2009年5月



———目次———	
2009年度の新たな活動に向けて	1
2009年度 定期総会報告	2
救護研修会報告	2
GWに残雪の尾瀬沼周辺調査	3
尾瀬自然講座 ショウジョウバカマ	4
お知らせ	4
事務局だより	4

## 2009年度の新たな活動に向けて

### ～尾瀬国立公園の地球温暖化影響調査～

理事長 永島 勲

#### 2009年度も多彩な活動を計画

ネットワークの今年度の主なフィールド活動は5月～10月の6ヶ月間で、土日を中心に13回の活動を予定している。

基本となる入山指導は、福島側では御池～沼山峠口間のシャトルバス内でのバス添乗解説、群馬側は鳩待峠で入山者への啓発活動を実施する。

「ライトセンサス法」による野生ジカの調査は今年で10年の節目を迎える。昨年、環境省の方針転換により今年から特別保護地区内でシカ捕獲（ワナおよび銃を使用）が実施されることになった。

高山植物の食害・生育状況やヌタ場、シカ道による湿原の荒廃調査を継続し、シカ捕獲による効果を検証する役割も重要となる。7月の群馬側の観察会では、奥鬼怒スーパー林道沿いに昨年設置された3.7Kmのシカ柵を見学する。更に、指導員養成講座の開講、8月の特別研修会で桜枝岐歌舞伎の鑑賞や観察会等、多彩な活動を計画している。



<少雪で雪解けの早い尾瀬沼(2009. 5. 4撮影)>

#### 地球温暖化影響調査への取り組み

I P C C（気候変動に関する政府間パネル）の第4次評価報告書（2007年）によると、過去100年間で世界平均気温が0.74℃上昇（第3次評価報告では0.6℃上昇）し、最近50年間の気温

上昇傾向は、過去100年間のほぼ2倍になっている。そして今世紀末には、平均気温は1.1℃～6.4℃上昇すると警鐘を鳴らしている。

日本でも温暖化の影響は顕著になりつつある。例えば、高温による農産物の収量減少や品質低下、ブナ等樹木の衰退や高山植物の減少、記録的少雨による渇水や山火事、集中豪雨による洪水や土砂災害などがニュース等で報じられている。

一方、尾瀬においては1961年から10年間の最高気温（6月～10月）の平均は24.0℃、1998年から10年間の最高気温（6月～10月）の平均は26.2℃で、37年で各10年間の最高気温（平均）の上昇幅は2.2℃と大幅に上昇している。同様に最低気温（平均）の上昇幅は1.6℃と、こちらも大きく上昇している。

地球環境が激変すると、その変化に対応できない動植物は絶滅に追いやられる。それは今までの生態系が崩壊することを意味する。たとえ温暖化に対応できる動植物であっても、食物連鎖や水の循環が分断されれば生存は

危うくなる。

これらの気候変動は尾瀬の自然（生態系）にも何らかの影響を与えていると考えられる。今後、中長期視点に立ち、新たな活動として地球温暖化による影響調査の実施が先の総会で決定した。その第一歩として尾瀬国立公園における外来植物（移入植物）の調査から取り組みたい。

# 2009年度 定期総会報告 (敬称/役職省略)

1. 日時：2009年4月18日(土) 13:00～16:30
2. 場所：大宮ソニックシティビル 902会議室
3. 出席者:23名、委任状:33名、正会員数:86名
4. 出席者氏名：荒尾、池田、磯部、伊藤、大橋、大山、佐藤、椎名、鎮目、清水、鈴木、高橋、武、千葉、円谷、永島、西山、初谷、前田、松澤、松前、藤田、深山、
5. 進行/開会宣言:磯部、議長:永島、記録:椎名
6. 理事長挨拶：永島
7. 議題
  - 1) 2008年度 活動報告
    - ①事務局報告 2008年度 活動履歴：椎名
    - ②入山指導 福島側：円谷、 群馬側：清水
    - ③研修会 福島側：円谷、 群馬側：清水
    - ④尾瀬ヶ原シカ調査：前田
    - ⑤指導員養成講座：前田
    - ⑥携帯電話基地局設置反対署名活動：高橋
  - 2) 2008年度会計報告：大橋
  - 3) 2008年度会計監査報告：深山
  - 4) 2009年度活動計画
    - ①入山指導 福島側：円谷、 群馬側：清水
    - ②観察会・研修会 福島：円谷、群馬：清水
    - ③指導員養成講座：前田
    - ④尾瀬ヶ原シカ調査：前田
  - 5) 2009年度予算：大橋
8. 議題の主な内容
  - 1) 2008年度 活動報告
 

各担当理事より、活動報告が行われた。  
特記事項として、特別活動の「携帯電話基地局設置反対署名活動」について、総数4,923名分の署名簿を12月18日に環境大臣へ提出したことの報告を、高橋理事が行った。
  - 2) 2009年度活動計画
    - ①福島側入山指導・清掃(担当：磯部、円谷)
      - 第1回目 5月29(金)、30(土)、31(日)
      - 第2回目 6月12(金)、13(土)、14(日)
      - 第3回目 7月18(金)、19(土)、20(日)
      - 第4回目 9月19(土)、20(日)、21(日)
      - 第5回目 10月10(土)、11(日)、12(日)
    - ②群馬側入山指導・清掃活動(担当：清水)
      - 第1回目：5月16日(土)、第2回目：6月27日(土)、第3回目：9月12日(土)
    - ③尾瀬ヶ原 野生シカ調査(担当：前田)
      - 第1回目 6月27日(土)夜半
      - 第2回目 9月12日(土)夜半
    - ④指導員養成講座(担当：前田)
      - ・室内研修 7月25日(土)
      - ・現地研修 8月21(金)、22(土)、23(日)
    - ⑤研修会・観察会
      - ・救護研修会：4月25日(土)
      - ・残雪の尾瀬沼周辺調査：5月3日～4日
      - ・奥鬼怒スーパー林道観察会：7月12日～13日
      - ・檜枝岐村の歴史と尾瀬 勉強会：8月22(土)
      - ・広沢田代、熊沢田代観察会：8月23日(日)
      - ・温暖化の影響による外来植物の調査方法等 検討会：群馬入山指導に合わせて
    - ⑥会報誌発行：年4回(5、8、11、2月)
9. 特別講演
 

4月18日(土)開催された定期総会後の特別講演は、(財)日本自然保護協会保護プロジェクト部辻村千尋氏を招いて「国立公園の抱える課題と解決に向けた新たな取組み」についてお話をうかがった。パワーポイントを使って辻村氏の活動や日本自然保護協会の活動の紹介のあと、本題に入ったが話はいつの間にか「尾瀬固有の課題」特に至仏山の裸地問題にポイントが移っていった。至仏山東面登山道の裸地化は修復不可能なレベルになってきたこと。人による踏み荒らしを原因として裸地化が進んでいった場所、自然の中で様々な要素が重なり合って裸地化が進んでいった場所など具体的に説明を受け認識を新たにされた。

南面登山道でも小至仏付近のお花畑を分断して作られた登山道やテラスなどの整備や登山道の付け替えは喫緊の課題となっていくと思われる。ネットワークでも至仏山については永島理事長や松前さん等の地道な調査活動のレポートが作成され公表されているが、さらに尾瀬と向き合う活動のヒントを頂いた講演であった。(前田 佳胤)

## 活 動 報 告

### 救護研修会報告

担当理事 前田 佳胤

定期総会が終わった次の土曜日(4月25日)午後、たぶんネットワークとしては初めての試みである「救護研修会」が八重洲のジャンダルムで行われました。

参加者は講師役の千葉、向井両指導員を含め1

0名。座学ではなく実際に止血の方法や三角巾の使い方を参加者がお互いに救護する側、される側に分かれ慣れない手つきで行いました。中々上手くいかずに悪戦苦闘しながら、爆笑も交えた和気あいあいとした楽しい、有意義な研修ができたと思います。尾瀬に限らずザックに入っている物を活用して臨時的救護用品とすること、またその使

い方を少しでも知っていることは救護しなければならぬ場合に役立つと思います。もちろん頭で理解していても、身体が動かないあるいは使い方を忘れてしまうことがあります。救護の研修はこれからも機会をみて継続する必要があります。消防署の救命講習や赤十字の救急員講習を受講することも、尾瀬で活動する我々には大事なことだと実感しています。まずは自分から…。



ザックに入れておくと怪我をした場合に役立つ用品を千葉さんにまとめていただきました。

荷物はなるべく軽くコンパクトが原則、救急用品もたくさんは要りません。

- 1、普段飲み慣れた薬（あくまで自分用、副作用の危険もあるので原則として他人には提供しない）
- 2、毛抜き
- 3、カットバン…大は小を兼ねるので数多くは不要
- 4、ガーゼ（洗濯したきれいなハンカチ、女性用ナプキン）…サランラップに入れておく
- 5、殺菌・消毒液…出血が少ない場合用、多量の出血は水での洗浄のみ
- 6、水（ペットボトル）…傷の洗浄用

代用品

- ・風呂敷、スカーフ…三角巾や包帯の代用になる。山小屋では荷物の整理や防寒具に
- ・ライター・マッチ…（濡れないようサランラップなどに包んでおく
- ・ストッキング … 三角巾や包帯の代用、寒い時には防寒や紐にもなる
- ・地図、ストック、傘…骨折時の添え木に
- ・新聞紙 …保温、靴の乾燥

参加者：伊藤あけみ、亀山良吉、鎮目安康、千葉早苗、円谷光行、永島 勲、前田悦子、前田佳胤、松沢 登、向井京子

## GWに残雪の尾瀬沼周辺調査

福島県担当理事 円谷 光行

福島側で活動開始。GWの5月4日に大江湿原の残雪調査とシカの移動経路確認、また尾瀬沼に投棄された（元長蔵小屋裏）空き缶の回収を実施した。参加者は9名であった。

尾瀬御池～沼山駐車場まではすでに除雪され、山開きの準備とシャトルバス開通に向けて、ガー

ドレール等の整備も始まろうとしていた。

4日の朝、沼山峠の登山口から残雪を踏みしめながらの入山開始となった。樹林帯の積雪は約120cmと平年より少なめだった。木々の根回り穴もなく、目印のリボンを目標に、樹林帯をショートカットできる、この時期だけの醍醐味を味わうことが出来た。また、この冬は雪が少なかったため、樹木にも枝折れ等の被害も少なく、木々は厳しい冬を無事に乗り切ったようだ。ただ低木は雪の重みで倒されていた。

### シカの移動経路調査

沼山展望台より少し下で、キツネかテンの食べ残しと思われる、カモシカの肉（皮）と骨のついた残骸（脚部関節写真）を発見した。尾瀬沼ヒュッテ



支配人は、病気か雪に足をとられて弱ったカモシカが餌食になったのだと説明してくれた。シカの足跡は、小淵沢田代～燧ヶ岳へと大江湿原を横切る爪痕を確認できた。また、大江湿原と尾瀬沼分の岐点手前では、親子連れのシカを含めて4頭が4日の早朝より10時まで同じ方向より湿原を横断した足跡を確認できた。

### シカの捕獲について

特別保護区内でのシカの捕獲を特別に許可されたが、その実施状況をビジターセンターで聞いた所によると、この時期は樹木の芽吹きもなく、餌がないために頭数も少なく、本格的な捕獲はこれからだという。

シカの捕獲は大江湿原と浅湖湿原で行うと尾瀬保護財団で発表した。地元猟友会との日程調整もあり予定通りには行かないようである。

### 残雪調査（平均99cm）

雪の定点調査個所では、雪がシャーベット状になっていた。計測は木道沿いから約10m離れた次の4地点を定めて計測した。

- 1、大江湿原入口地点 110cm
- 2、小淵沢田代分岐点 110cm
- 3、ヤナギラン分岐点 83cm
- 4、三本カラマツ分岐点 95cm

以上4地点を、今後も継続して調査する。

例年より40～50cm位少ないようである。

### 投棄された空き缶（ガラス瓶）拾い

元長蔵小屋裏側の尾瀬沼の岸边には多くの空き缶、ガラス瓶等が腐らずキラキラと光って、湖底に沈んでいて異様な風景である。空き缶やプラタ

ブを今回の調査で回収することにした。1. 5m位の柄の付いた網と太めの針金を持参、手の届く範囲で1つずつ拾い上げた。この箇所は以前に沼への土砂の流出防止にドラム缶を利用して護岸工事をした場所である。今は腐食したドラム缶は撤去され、太い金網の布団かごと呼ばれる方式で護岸が整備されている。この場所は一般のハイカー

の目にふれる所ではないが、我々にとっては気になる場所である。今回のごみの取り残しは、道具を工夫して次年度に回収することにした。  
参加者：安部晃樹、磯部義孝、伊藤アケミ、大橋文江、亀山良吉、円谷光行、永島 勲、松前雅明、  
一般参加者：鹿野キミエ（新会員）

## ～尾瀬自然講座～

### 尾瀬の植物（2）

#### 春の使者 ショウジョウバカマ（猩々袴）

#### ユリ科 常緑多年草

北海道東部、九州西南部の一部を除き、低山から亜高山まで日本全土に幅広く分布する。

山野のやや湿った場所を好み、根出葉はロゼット状につき、その中心から20cm程の花茎を伸ばし、その頂きに6～10個の花を横向きにつけます。花は6枚の花被片からなり、雄しべ、雌しべが花被より長く飛び出すのが特徴です。花色は濃紫、赤紫、淡紅色、白色等変化が多い。



ショウジョウバカマは、雌性先熟であるが、開花してから葯が開くまでの期間が短いため、自家受粉も他家受粉もする。開花期が終わると花茎は50cmほどに伸び、花は上向きに、花色も褐色から緑色になり、種子が成熟してさく果が裂開する。

種子本体は長さ5mmほどの糸くず様で、1個の花に千個以上の種子をつける。花茎が長く伸びるのは、より高い位置から種子を風に託し、遠くへ飛ばすための知恵なのです。

しかし、実生からの発芽率は非常に低いのです。このため確実に子孫を残すもう1つの繁殖法を生み出したのです。親个体から栄養をもらいながら地表に接している葉の先端から根を出し、小さな植物体を作ります（不定芽）。葉が枯れると新しい个体は親から離れ独立します。

ショウジョウバカマは、種子と不定芽による繁殖で環境の厳しい条件下でも、確実に子孫を残していけるのです。

和名は、猩々（中国の伝説上の動物）の赤い毛に、根生葉から袴を連想したもの。

※雌性先熟（しせいせんじゅく）：近親交配を避けるため雌しべが先に成熟し、雄しべは後から成熟する。同一の花での受粉が避けられる。

※参考文献：日本の山野草（成美堂出版）、植物の世界（教育社）、フィールドウォッチング（北隆館）、尾瀬（日本交通公社）

（深山美子）

## ＝お知らせ＝

### 《シカ調査》

シカ調査担当理事 前田佳胤

平成21年度総会議案の最終ページに記載されています予定表のうち6月13日の夜に予定していましたが、環境省が大江湿原の木道を含むエリアに捕獲用ワナを設置しているため、夜間活動における危険回避の観点から実施を見送ることにいたします。したがって、6月13日の活動はバス添乗解説及び昼間の「シカ被害による大江湿原のニッコウキスゲ生育状況調査」となりますので、ご了承ください。

### 《事務局から》

OMCカードの申込用紙が、会社の合併により変わりました。今後は、5月号会報誌に同封の

用紙でお申し込み下さい。

### 事務局だより

- ① 4月20日 OMCホームページ更新 永島 椎名
- ② 4月24日 OMC 20年度報告書提出 永島

### NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.12 No.1号 2009年5月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康

Web担当：島田 富夫

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203 (株)SEC 内

電話 03-3581-0321 / FAX 03-3581-2178

Web : [http://www.geocities.jp/oze\\_net/](http://www.geocities.jp/oze_net/)

